

●シリーズ●わが町の文化財へ69

世羅町史跡 向原第5号古墳

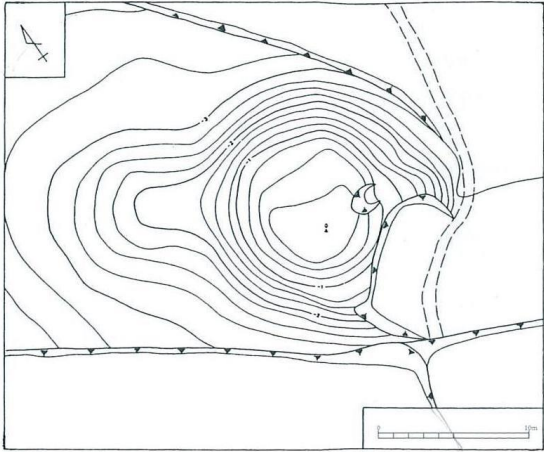
平成4年1月16日指定

丘陵の頂部に立地している前方後円墳です。北西側に方形部が付設されていますが、この前方後円墳は方形部が著しく小さい帆立貝形と呼ばれる形をしています。古墳の規模は全長が約24m、後円部の直径17.5m、高さ約3m、方形部は幅が約8.5m、高さ約1mで、5世紀後半から6世紀前半に造られたと考えられます。古墳の一部が後世の開墾により削られています。発掘調査がされていないため、埋葬施設の構造は不明です。

世羅町内には、この向原第5号古墳を含めて7基の前方後円墳が確認されていますがそのうちの2基が津口地区にあります。前方後円墳の存在は、古墳が造られた当時、大和朝廷につながる有力者がこの地に存在していたことを物語っています。



▲古墳遠景



▲向原第5号古墳実測図

●シリーズ●わが町の文化財へ70

世羅町史跡 瓜ヶ久保古墳

昭和58年4月1日指定

この古墳は古くから開口しており、出土品は不明です。長径一二m、短径九m、比高四mくらいの盛土のある円墳で、横穴式石室を持っています。

玄室の奥行三・五m、幅一・四m、高さ一・九mで、古墳時代後期のものと推定されています。また、奥の壁に二枚の石を縦に並べ、その上に横向きにした石を重ねており、この施工方法は、町内では江の川水系の古墳でよくみられます。

旧世羅西町内には、これまでに古墳が一五〇基ほど発見されていますが、当地域を代表する標準的な横穴式石室をもった古墳として、世羅町指定史跡になったものです。



▲古墳入口部分



▲古墳内部（玄室）